

第2章 篠ノ井線（松本～篠ノ井）

第1節 旅プラン

平成26年4月26日（土）～29日（火）の飛び石連休を活用し、篠ノ井線（篠ノ井＝松本：53.4km）と上高地線（新島々＝松本：14.4km）の踏破に挑戦する。なお、当初の予定は大糸線の一部を考えていたが、姨捨（おぼすて）と冠着（かむりき）の間の歩きにてこずり、上高地線に変更。

(1) 4月26日（土） 晴れ

町田から篠ノ井まで電車に乗り継ぎ、篠ノ井＝姨捨（12.5km）を踏破。

姨捨と冠着の間で引き返す事態発生。

電車で松本まで戻り、東横イン松本泊（809号室）。

(2) 4月27日（日） 晴れ

電車で冠着まで行き、冠着＝松本（35km）を踏破。

東横イン松本泊。

(3) 4月28日（月） 晴れ

電車で姨捨まで行き、姨捨＝冠着（5.9km）を踏破。

電車で松本、新島々と移動し、新島々＝松本（14.4km）を踏破。

東横イン松本泊。

(4) 4月29日（火）晴れ

早朝松本城を散策し、あずさ8号（松本8時51分発）で自宅へ。

第2節 1日目：4月26日（土）：篠ノ井～姥捨 晴れ

篠ノ井(10:56)～稲荷山(12:26)～姨捨(14:46)

朝3時前に起き、旅行の準備。家内に町田まで送ってもらい、次の電車に乗り継いで篠ノ井まで向かう。運賃は4,750円要す。

町田 4時56分 → 八王子 5時21分

八王子 5時35分 → 大月 6時19分

大月 6時23分 → 甲府 7時12分

甲府 7時25分 → 松本 9時18分

松本 9時37分 → 篠ノ井 10時56分

本日は飛び石連休が絡む土曜日のため、一般客が多いと思ったが意外に少なかった。それ故、高校生の乗下車が目立った。日野春で学生がどっと降りた。小淵沢から雪化粧の北岳は雄大であった。いずれにしても、松本までは窓から見える風景は、懐かしい劇場となった。信濃境の桜は満開であった。塩尻で9分待ち合わせがある。村井と南松本の間に新しい駅“平田駅”が創設されていた。松本に着くや否や「松本松本」と懐かしい掛け声が聞こえて来る。松本駅から階段を上下し2番ホームへ。2両編成のワンマンカー（女性の運転士）であった。西条駅の桜は満開であった。田沢駅手前や聖高原駅で対向車の待ち合わせがある。そのようなこともあり、篠ノ井まで79分も要す。姨捨駅（おぼすて）の電車の動きには驚いた。後戻りし、レールを切り替え、また前進する。姨捨駅からの風景は最高であった。下界には千曲市等が広がっていた。



篠ノ井駅

篠ノ井駅には予定通り、10時56分到着するや否や運賃の精算をする。パスモは使用できず、現金で4,750円要す。篠ノ井駅でパスモが使用できないとは驚いた。少し早いですが、駅構内のそば処“あんず”で大好物のかき揚げ蕎麦を頂く。近代的な駅舎である2階の広場には未来に向かっての像があった。この駅は2年振りである。ただし、2階までは来ず。この駅はしなの鉄道も走っているの、用心深く歩くことを余儀なくされる。昭和入口（11時23分）で鉄道の右側を歩くことにする。しかし、この鉄道はしなの鉄道であった。もう少しで、誤るところであった。篠ノ井線は大きくカーブしながら300m位左を走っていた。用心深く遠くを見たのが正解であった。



あんず



善知防踏切

11時41分、善知防踏切を横切り、JR線の右側を歩く。丁度特急電車が通過するところであった。郵便屋さん、確認のため、この鉄道が篠ノ井線であることと稲荷山駅方面の道筋をお尋ねする。この鉄道に沿った道なりを歩ければ行けるとのことであった。沿線にはビニールや沢山の草花が春の訪れを発信していた。東日本高速道路が頭上にあった。12時16分、麻績村（おみ）17km、安曇野40km、松本50kmと表示した道路標識が頭上から見える。ここでのポジションは左手にはJR線、右手には高速道路が続いていた。12時22分、柳岸田踏切を横切り、鉄道の左側に出る。上りの貨物列車が通過するところであった。旅館のような駅舎をもつ稲荷山駅には12時26分到着。本日の最初の踏破駅で、山の裾野にあった。



松本 50 km



稲荷山駅

12時38分大門踏切を横切る。その先に大門神社がる。山間の路地は途中で行き止まりとなり、12時44分旧長谷街道踏切を横切る。すなわち、鉄道の左側を姨捨駅まで歩くことにする。12時56分、篠山遊歩道を歩く。この路は旧北国西街道としての表示あり。山の裾野の路は、スポンジのような感じで足にやさしかった。桜を中心とする木々が満開を迎えていた。公園を散策する。



旧北国西街道

この山の裾野沿いの路は途中で行き止まりとなり、一般道に戻る。ここから、姥捨駅までは遠かった。中々高台にある姥捨駅がある山が見えず。何人もの地元の人に聞きながら姥捨駅を目指す。13時23分、暑くなり上着を脱ぐ。同時に、姥捨駅がある山が見える。スマホのナビを活用しながら、姥捨駅を目指す。まだナビの操作が十分活用できないため、混乱(14時15分頃)。その時、軽トラックに乗った方に姥捨駅への路をお尋ねする。偶然にも、「この路を上がった先にあります。急な坂道ですが、見晴らしもよいし、近道ですよ。一緒に途中まで乗せてあげましょうか」との親切なアドバイスを頂戴する。「有難うございます。歩きます」と応対する。14時17分、幹線道路を離れ、教えて頂いた坂道を上る。14時31分、太い道路に出る。その先の鎌砥踏切(14時35分)を横切り、鉄道の右側を歩く。



姥捨駅への路



眺めのよい姨捨と満開の桜を背景に3人のカメラマンの姿があった。14時38分、その一人の方に写真を撮ってもらう。14時40分、戸倉山田温泉と千曲高原の看板がある。14時42分、300m位先に姨捨駅が見えて来る。14時46分、やっと姨捨駅に到着。この駅のレール構造は特殊で、篠ノ井駅のレールは一段下にあった。それ故、スイッチバックし、更に前進というユニークな動きをしていた。駅前には「60歳を過ぎた老婆から助けがあった旨の“むかしむかし”話」の看板がある。



姥捨駅

駅前で数分散策し、冠着駅を目指す。しかし、右往左往して、冠着駅の路が判明できず。レールに沿った道路は行き止まりで、踏切を横切り、大きく坂を下る構造の道筋であった。この道路では、山を越えられないと判断。急な坂道を上る道路は、高速道路に繋がっていた。それ故、30分位迷いに迷う。検討した結果、高速道路に沿った道を歩くことにする。しかし、正解は少し戻り、国道403号線への路であるが。この近郊は「姨捨スマートIC」とあった。



姨捨駅



行き止まりへの路



御麓踏切

途中、ドライバーにもお尋ねしたところ、この路からでも聖高原にも行けるとのことであった。しかし、大事な言葉（「上に登る」）を見損じする。すなわち、途中分岐点があり、本来右に行くべきところ、左に行ってしまったからである。右は高速道路から大きく外れるからである。今から考えると、右には数台の車の駐車があった。ここの分岐点の誤りで、以下無駄な歩きが余儀なくされる。15時24分、来光寺橋を通過。下には高速道路があった。高速道路に沿った道を歩く。しかし、高速道路と同じ目線となったところで、道が途切れる。それ故、500m引き返し、民家つながる道に出る。JR線があり、15時54分、JR線に沿って歩くが、途中で行き止まりとなる。再度、引き返し、16時、御麓踏切（みくろ）を横切り、鉄道の左側となる。民家の人にお尋ねしたところ、「山間の道筋から冠着方面に行ける」との情報を得て、挑戦することにする。



土砂崩れの界限

姨捨駅

しかし、この路、数日前の土砂崩れで通行止め。頑固の柵があり、一步も進めず。またまた、引き返しが余儀なくされる。日没も近いし、頭の中は真っ白の状態であった。最終的には、農作業をしている方のアドバイスを受け入れ、姨捨駅まで引き返すことにする。姨捨駅には17時39分到着。約3時間、恰も徘徊のような無駄な動きとなる。しかし、後で考えるといい英断であった。



冠着への路には4時間半位要するからである。姨捨駅17時45分発の甲府行きの電車で松本に向かう。運賃は760円要す。東横イン松本(809号室)には18時47分到着する。東横インの宿泊1日分の無料券があったので、10,793円(3泊分)でOK。ホテル界隈の若大将(ラーメン屋)で夕食。生ビールがとても美味しかった。本日の営業キロは12.5km、万歩計は46,363歩であった。反省の残る一日であったが、姨捨駅からの風景は最高であったし、満開の桜を見られ充実した一日であった

第3節 2日目：4月27日（日）：冠着～松本 晴れ

冠着（8:09）～聖高原（9:28）～坂北（11:01）～西条（12:08）～明科（15:21）
～田沢（17:04）～松本（19:23）

深夜2時頃目が覚める。テレビをつけると、将棋の一番長い日（再）が放送されていた。元名人であった谷川氏と屋敷氏が降級した生々しい放映がされていた。昇級は広瀬氏と〇〇氏とのこと。残留のA級は、羽生、行方、渡邊、佐藤、深浦、郷田、久保、三浦の各氏とあった。命がけの勝負には、迫力を強く感じた。そして、感動を。日曜日のNHKの対局番組とは異なる壮絶な雰囲気が漂っていた。読みと読みの頭脳的な戦い。駒と駒のぶつかりあい。正に、大戦争であった。1時間位観戦し、本日の作戦を練り、再度仮眠する。



東横イン 若大将



松本駅

5時半頃、起床し、本日の準備をする。ホテルロビーで7時前（本日に限り6時45分）に食事を摂り、ホテルを7時13分に出る。松本駅を7時30分の電車で冠着駅（かむりき）へ。本日の電車はスイスイと進み、冠着駅には8時9分到着。途中、明科～西条（にしじょう）の間に長いトンネルがあった。聖高原駅から500m位先に高速道路が走っていた。冠着駅（運賃580円）に到着するや否や、女性の駅員さんに昨日の情報をご説明後、姨捨＝冠着の踏破方法をお尋ねする。電車に乗るや否や、安次富さんにウォーキング情報を入れ

ることにより、姨捨=冠着（5.9km）のリベンジを急遽思いついたからである。リベンジとして、聖高原経由コース（国道403号）と姨捨山と冠着山の裾野を通るコースの2通りがあった。15分位丁寧にご指導頂く。どちらも大変そうとのことであった。それ故、結論はせず、歩きながら考えることにする。

冠着駅前をデジカメに収め、8時25分、聖高原駅を目指し歩きスタート。8時36分、須名踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。8時59分、落合橋（32歩）を横切る。9時1分、高速道路下を通過。右手には川が流れていた。9時7分、土手にぶつかる。土手を出た先は宮本という地名であった。麻績神明宮（おみ）の看板があった。明後日再度通過。9時25分、松本信用金庫があった。9時28分、聖高原駅に到着。



冠着駅



麻績神明宮 聖高原駅

9時40分、松本37km、大町28km、明科21kmの道路標識前を通過。9時46分、麻績村叶里（おおみむらかのり）に到達。10時6分、下井堀。10時26分、下田に。10時35分、差切狭岩殿寺とうい看板前を。10時36分、43歩ある中島橋を渡る。橋を渡ると麻績村から筑北村となる。10時38分、松本33km、明科17kmの道路標識前を通過。10時56分、鉄道下を潜る。上り電車がやって来る。



筑北村 坂北駅

11時1分、桜が駅舎前にある坂北駅に到着。駅前には、開発記念碑があった。11時7分、鉄道下を潜るがもとに戻る。11時11分、坂北郵便局前を通過。11時22分、中村という地名に到達。11時23分、第3西街道踏切を横切り、鉄道の右側へ。丁度、下りの特急が通過して行くところであった。沿線の田圃では、来るべき田植えに備えてしろかきをしていた。親父が元気だった平成17年までは、数年間5月の連休には田植えの手伝い帰っていた。懐かしい限りである。11時33分、坂北村刈谷沢を通過。11時45分、観音寺の方向にある西條大橋（44歩）を渡る。西条駅が500m位見える先で12時のサイレン（故郷）がなる。12時8分、西条（にしじょう）駅に到着。



西條大橋 西条駅

自転車に乗った士郎君という小学生2年生の坊やに挨拶をされる。本庄小学校に通っているとのことであった。孫のような存在であったのでとても親しみを覚えた。12時20分、筑北村西條を通過。12時22分、小仁熊を通過。12時30分、枇杷平筑北村営バス停前を通過。明科駅を目指し山間を歩く。西条＝明科区間は大半が山の中にあつた。12時32分、JR

線が道路下を走っていた。12時45分、高速道路下を潜る。12時47分、405mある滝上第1トンネル(602歩)を通過。トンネル前の温度計は22℃とあった。このトンネルを出るとすぐ128mある第2トンネル(169歩)があった。このトンネルを出ると、滝上3号橋(120歩)が続いていた。13時14分、矢越トンネル(456歩)があった。このトンネルを出ると、安曇野市となる。依然、民家は見えず。13時28分、安曇野市矢越で土砂崩れ防止のトンネル(グリーン)を通過。13時51分、矢越同門(82歩)を通過。14時6分、民家が見えて来る。14時12分、水田でカエルの鳴き声を耳にする。14時20分、やっと自動販売機と対面。からからとなった喉を潤す。14時25分、安曇野市竹の花を通過。14時40分、今年初めての鯉のぼりと対面。14時49分、天白バス停前を通過。14時57分、明北小学校前を通過。14時58分、木戸交差点を通過。ここから国道19号線で賑やかな通りとなる。15時12分、松本16km、塩尻29km、名古屋197kmの看板を目にする。



明科駅への路



明科駅

15時21分、明科駅に到着。15時30分、セブンイレブンに立ち寄り、パンを購入。昼食にしようと思っても店なし。また、コンビニもなし。非常に遅い昼食となる。15時39分、安曇野市塔ノ原を通過。右手に雪化粧の山々を見る。国道19号線は、歩きにくい歩道が続いていた。15時56分、安曇野市宮本で本格的な鯉のぼりを見る。15時58分、犀宮神社前

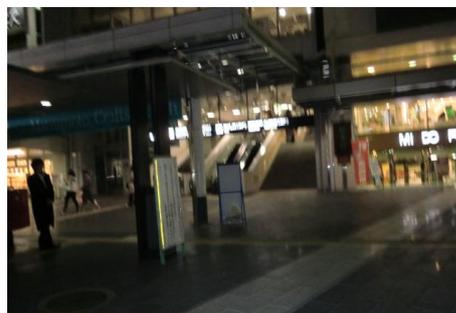
を通過。16時32分、名古屋192km、塩尻24km、松本11kmの道路標識前を通過。17時4分、田沢駅に到着。



安曇野市塔ノ原

田沢駅

17時15分、ローソン豊科田沢店でアイス購入。17時29分、松本市に入る。17時36分、下田という地名を通過。西日が綺麗であった。右手にはJR線、左手には千曲川が続いていた。18時8分、吊り橋の平瀬橋前を通過。18時18分、坂北駅手前で脱いだ上着を着る。18時30分、昨日乗った電車が手打ち蕎麦屋前で追い越して行く。18時44分、JR線の上を越え、鉄道の左側に。19時、白坂踏切を横切る。鉄道の右側を歩く。橋を越えた先の交差点を左折する。19時17分、JR線下を潜り、道なりに歩く。次の交差点を右折した先に松本駅（19時23分）があった。駅前の松屋で夕食とする。何とか、ホテルに20時前に到着できる。本日は何としても、20時前にホテルに到着したかった。大河ドラマの軍師官兵衛を見たかったからである。念願がかないほっとする。ホテルには19時47分到着。本日の営業キロは35km、万歩計は71,588歩だった。目標が達成でき、枕を高くして寝ることができた。



平瀬橋

松本駅



松屋



東横イン

第4節 三日目：4月28日（月）：姥捨～冠着 晴れ

姨捨(8:17)～冠着(13:02)

4時頃目が覚め、本日の作戦を練る。推敲に推敲を重ね、リベンジである姨捨＝冠着間(5.9 km)は、多少聖高原方面から2km位戻ることが余儀なくされるが、聖高原経由とする。主な理由は、403号線の国道で確実に行ける。また、聖湖や聖高原が観光できる。加えて、冠着山や姨捨山経由に比べ、歩く距離が短いからだ。冠着からの電車の時間を次の通り、時刻表から調べメモする。10時47分、11時57分、13時9分、14時16分・・・。

そして、コンビニで姨捨＝冠着近郊の地図を拡大コピーする。本日の成功を祈願して。そして、もう一つ、ホテルロビーのパソコンより、アルピコ交通の上高地線の駅名を調査しメモする。新島々から松本までの営業キロは14.4kmとあったが、各駅の営業キロは分からず。それ故、非効率な歩きを余儀なくされる。時間から駅を掌握できないからである。



松本駅



姥捨駅

本日も昨日と同様な電車(7時30分松本発)で臨む。ホテルの前でデジカメを撮ろうとしたところ、昨日充電した電池を格納していないことに気がつく。それで、再度ホテルに戻るといふ事態が発生する。松本駅の2番ホームには、7時20分頃到着。本日は、電車が

ホーム停車しておらず。姨捨駅には8時17分到着。



姨捨駅界限



執念への路

国道に出る

国道403号線の方角を思い出す。少し稲荷山駅方面に戻る。一昨日、カメラマンの方に写真を撮ってもらった辺りである。聖高原方面の看板があり、安堵する。念のためドライバーにも確認する。道路は高速道路を横切って続いていた。分岐点が2ヶ所あり、迷いそうになるが、冷静に判断し対処する。2ヶ所ともクリア。8時39分、国道403号という看板を見て安堵する。これで、この路なりに進めば冠着駅に到着できると確信する。8時51分、松本51km、明科34km、麻績13km道路標識を目にする。この辺りの地名は、千曲市八幡であった。



聖高原への路

千曲川展望公園

8時53分、名月の里／千曲川展望公園に到着。この辺りから、千曲市や上田市が一望できた。戸倉や冠着橋もあった。この近郊で晴れとなる。9時1分、11号カーブ前を通過。9時28分、20号カーブという表示前に到達。9時43分、26号カーブ辺りには千曲高原カン

トリークラブがあった。何組かゴルフを楽しんでいた。10時13分、37号カーブ辺りで頂上に達する。暫くすると、フラットな道となる。尾根への移動を感じた。10時24分、同一方向で自転車野郎が追い越して行く。10時26分、300m位先に、聖湖が見えて来る。



聖湖

10時27分、松本44km、明科35kmの看板前に到達。ここから千曲市から麻績村(10時29分)となる。聖湖では沢山の釣り人が鮎釣りを楽しんでいた。聖湖に浮かぶ足場は一本杉栈橋(10時31分)とあった。10時40分、観光客の方に聖湖前で写真を撮って頂く。聖高原にはレストランもあった。煮込みうどん(600円)を賞味したかったが、11時前なのでパスする。これから高原を下山する。11時、白樺並木を見つける。近くには別荘があった。俳句を考えながらの歩きとなる。「冠着よ こだわり通す 桜道」「冠着よ 歩き通した 桜道」



麻績村聖高原

白樺

11時7分、聖高原線の雀口前を通過。11時25分、大峠ゆめ公園前を通過。11時30分、苦しように上る自転車野郎と対面する。11時34分、市野川(市野川橋)を渡る。

「冠着や こだわり続く 桜道」

「桜の中 こだわりくれた 麻績路かな」

「桜舞う こだわり通した 麻績路かな」

12時5分、前方にJR線を見つける。12時11分、12号線と合流する本町交差点に到達。ここから、12号線を歩く。この延長に歩いた先を左に左折した先に冠着駅があった。



冠着駅への路



冠着駅

12時14分、筑北中学校前を通過。12時23分、見覚えのある神社（郷社神明宮）前を通過。宮本という地名であった。先日、行き止まりの土手を出た先がこの限界であった。12時26分高速下を通る。高速道路に沿った山崎橋（48歩）を渡る。川とJR線の間を歩く。12時44分、杉崎踏切を横切り、JR線の右を歩く。13時2分、冠着駅に到着。先日の女性の駅員さんにお礼と本日の結果そしてカッシー館をPRする。この人のお蔭で姨捨＝冠着が達成できたようなもので、感謝の気持ちで一杯となる。13時9分の電車で松本駅に向かう。本日の営業キロは5.9km、万歩計は30,988歩だった。松本まで運賃は580円要する。本日の歩きにより、名古屋駅、新宿駅そして東京駅から篠ノ井経由で長野駅までがつながり、感無量となる。そういう意味では、本日の歩きは価値ある歩きであった。